

令和6年能登半島地震の被災地応援

避難所支援業務(旧本小学校)

松戸市 総合政策部 すぐやる課 課長 根本 慎一
選挙管理委員会事務局 補佐 渡辺 貴生
総務部 危機管理課 主査 田中 永志

支援概要及び組織体制

派遣先：石川県 珠洲市

期間：令和6年1月13日(土)から
令和6年1月17日(水)まで

チーム：支援・調整

クール：第3

構成：千葉県職員8名、市職員9名

配置：松戸市 旧本小学校

(2004年廃校)

指揮(総括)

浜松市

避難所運営

福井県・千葉県隊

運営部隊	避難所名	配置職員	避難者数(1/16時点)
千葉県運営	金沢大学能登学舎	佐倉市2名	約20名
	旧本小学校	松戸市3名	約60名
	大谷小中学校	県職員4名	約150名
福井県運営補助	若山小学校	市原市1名	約80名
	緑丘中学校	市原市1名	約220名
	蛸島小学校	市原市1名	約100名

※その他、見回隊(調整)で県職員4名

日本小学校避難所



- 所 在 石川県珠洲市三崎町本17-47
- インフラ 電気○ Wi-Fi○ 水道× ガス× 仮設トイレ3
物資・生活用水・灯油は自衛隊が配給
- 代 表 者 本地区:新池区長・森腰地区:町口区長
- 業務内容 <避難所運営支援>
区長のサポート、衛生管理、防犯・治安維持、
支援物資管理・搬入補助、炊き出し補助、
受付(避難者名簿管理、物資持出者管理)
- 支援形態 24時間常勤(19時~翌日7時:応援職員は1名)
- 避難場所 1階 校長室
教室 (6部屋)
体育館 合計8か所使用
- 救 護 室 2階 教室(急患用)
- 物資置場 1階 廊下・体育館壁際等
- 受 付 昇降口(区長・応援職員)
- 応援者部屋 2階 音楽室

周辺被害状況



<家屋の倒壊>

- ・木造在来工法
- ・未耐震建築
- ・瓦葺き屋根
- ・地盤軟弱
- ・積雪

<道路・ライフライン損壊>

- ・山間部
- ・樹木繁茂
- ・地盤軟弱

活動内容 ①

様式 7

活動日報

報告日: 令和6年1月14日(日)

派遣先市町村	珠洲市		
活動日	令和6年1月14日		
活動者	活動者 *所属・職・氏名を記載 FAX: - - (代表) 松戸市 根本課長 田中主査 渡辺局長補佐		
活動場所	当該場所の名称・所在地: 旧本小学校 三崎町本17-47		
責任者	派遣先市町村の責任者等:		
活動内容 *時系列	時間	内容	
	7時45分	※青字は引継ぎ前(柏市)の活動 区長からの依頼により、前日20時から翌朝8時まで、職員交代で待機(1人体制) ・給水車による給水 8時00分 ・朝食(パックご飯) 9時35分 ・中日新聞から物資搬入(食料、カイロ) ・自衛隊物資搬入(灯油3缶) 9時45分 ・仮設トイレのし尿回収 10時10分 ・自衛隊物資搬入(食料、飲料、カセットコンロ) 10時15分 ・珠洲市からのお知らせを熊本市職員が持参し、避難所内の女性ニーズ調査実施 10時30分 ・広島県の保健師による巡回 11時30分 ・松戸市到着、引き継ぎ 12時00分 ・柏市撤収 13時50分 ・岐阜県赤十字の医師や看護師や薬剤師による往診(8名) 14時05分 ・日本チェーンドラッグストア協会2名:市販薬支援物資の説明 17時30分 ・夕食(炊き出し) 18時30分 ・ストーブへの灯油補給 ※適宜、ゴミ回収、ドアノブ除菌、在宅避難者に物資引渡しを実施	
	8時00分		
	9時35分		
	9時45分		
	10時10分		
	10時15分		
	10時30分		
	11時30分		
	12時00分		
	13時50分		
	14時05分		
	17時30分		
	18時30分		
特記事項	*勤務先周辺の生活環境や他団体の活動、その他気付いた事項について記載 ・本日3人退所1人入所につき、現在の避難者数は70人程度。		
連絡事項	*翌日への備忘録、後任への引き継ぎ事項、県への報告事項等について記載 以下物資を要望します。 ・ガムテープ ・ペーパータオル ・吸水シート ・ブルーシート ・灯油 ・紙コップ ・袋のラップ(アイラップ) ・紙皿(深いお椀型)味噌汁用の事 ■応援職員用の物資要望 なし		

※欄が足りない場合は、本様式を複数枚使用するか、任意様式の添付による報告も可

様式 7

活動日報

報告日: 令和6年1月15日(月)

派遣先市町村	珠洲市	
活動日	令和6年1月15日	
活動者	活動者 *所属・職・氏名を記載 FAX: - - (代表) 松戸市 根本課長 田中主査 渡辺局長補佐	
活動場所	当該場所の名称・所在地: 旧本小学校 三崎町本17-47	
責任者	派遣先市町村の責任者等:	
活動内容 *時系列	時間	内容
	7時40分	前日19時から翌朝7時まで、職員交代で待機(1人体制) ・給水車による給水 8時00分 ・朝食(パックご飯) 9時05分 ・避難所調査(浜松市) 11時00分 ・仮設トイレし尿汲取 11時30分 ・昨日赤十字診察分薬納品(岩手県ほけん班) 12時00分 ・自衛隊物資搬入(灯油4缶他消耗品) 12時50分 ・埼玉県警来所 18時30分 ・明日設置のシャワー納品(日本財団 WOTA) 19時00分 ・各所の給油 ※適宜、給油、給水、ゴミ回収、ドアノブ除菌、在宅避難者に物資引渡し、対所者対応を実施
	8時00分	
	9時05分	
	11時00分	
	11時30分	
	12時00分	
	12時50分	
	18時30分	
	19時00分	
特記事項	*勤務先周辺の生活環境や他団体の活動、その他気付いた事項について記載 午前中の退去者 3人 現時点の避難者数 57人	
連絡事項	*翌日への備忘録、後任への引き継ぎ事項、県への報告事項等について記載 物資要望は、浜松市来所時に伝達 ※物資の追加要望は、夕方の要望の通りお願いします ■応援職員用の物資要望 なし	

※欄が足りない場合は、本様式を複数枚使用するか、任意様式の添付による報告も可

活動内容 ②

様式 7

活動日報

報告日: 令和6年1月16日(火)

派遣先 市町村	珠洲市	
活動日	令和6年1月16日	
活動者	活動者 *所属・職・氏名を記載 FAX: - - (代表) 松戸市 根本課長 田中主査 渡辺局長補佐	
活動場所 責任者	当該場所の名称・所在地: 日本小学校 三崎町本17-47 派遣先市町村の責任者等:	
活動内容 *時系列	時間	内容
	7時30分	前日19時から翌朝7時まで、職員交代で待機(1人体制)
	10時12分	・給水車による給水 ・シャワー設置(日本財団WOTA)3名 ※13時半設置完了、その後避難者への説明、14時以降順次利用が可能となりました
	10時15分	・DPAT岩手県診察
	10時20分	・仮設トイレし尿汲取
	11時15分	・自衛隊物資搬入(灯油2缶他消耗品)
	12時35分	・珠洲市社会福祉協議会 ※他施設お風呂までの輸送支援の説明
	13時15分	・浜松市赤十字診察6名
	13時40分	・埼玉県警見回り2名
	14時30分	・珠洲市(熊本市応援)2次避難者希望者への説明
	18時30分	・各所の給油 ※適宜、給油、給水、ゴミ回収、ドアノブ除菌、在宅避難者に物資引渡し、対所者対応を実施
特記事項	*勤務先周辺の生活環境や他団体の活動、その他気付いた事項について記載 入退去者 0人 現時点の避難者数 57人	
連絡事項	*翌日への備忘録、後任への引き継ぎ事項、県への報告事項等について記載 ・物資要望 ①紙皿お椀型のもの(汁ものに使います) ※本日納品しましたが、浅い紙皿が納品されました ②単4電池 ※本日納品されましたが、単3電池が納品されました ■応援職員用の物資要望 なし	

※欄が足りない場合は、本様式を複数枚使用するか、任意様式の添付による報告も可

様式 7

活動日報

報告日: 令和6年1月17日(水)

派遣先 市町村	珠洲市	
活動日	令和6年1月17日	
活動者	活動者 *所属・職・氏名を記載 FAX: - - (代表) 松戸市 根本課長 田中主査 渡辺局長補佐	
活動場所 責任者	当該場所の名称・所在地: 日本小学校 三崎町本17-47 派遣先市町村の責任者等:	
活動内容 *時系列	時間	内容
	7時30分	前日19時から翌朝7時まで、職員交代で待機(1人体制)
	8時10分	・給水車による給水 タンク枯渇
	8時20分	・朝食(バックご飯)
	9時10分	・避難所調査(浜松市)
	9時25分	・給水車による給水 再配達
	9時50分	・石川県赤十字診察6名
	10時05分	・仮設トイレし尿汲取
	10時15分	・自衛隊物資搬入 ブルーシート
	10時20分	・可燃ごみ回収
	10時20分	・自衛隊物資搬入 消耗品
	10時20分	・四街道市 到着、引き継ぎ
	12時00分	・朝食 カップメン
	12時20分	・松戸市徴収
	12時30分	・珠洲市役所 衛星電話返却
	13時15分	・珠洲市役所 出発 ※適宜、給油、給水、ゴミ回収、ドアノブ除菌、在宅避難者に物資引渡し、対所者対応を実施
特記事項	*勤務先周辺の生活環境や他団体の活動、その他気付いた事項について記載 午前中の退去者 0人 現時点の避難者数 57人	
連絡事項	*翌日への備忘録、後任への引き継ぎ事項、県への報告事項等について記載 ・物資要望 至急 ① 灯油 200ℓ ② マットレス ■応援職員用の物資要望 なし	

※欄が足りない場合は、本様式を複数枚使用するか、任意様式の添付による報告も可

避難所支援に当たりまして ①

<感想:根本>

今回、何か少しでも能登半島地震で被災された方々が日常の生活を取り戻すためのお役に立てれば良いと考え、応援派遣に手を挙げさせていただきました。

まずは、私どもが派遣されている間、通常業務を担っていただいた所属の皆様には感謝を申し上げます。

現地の状況は、体験したことがないくらいの冷え込みで、夜間は氷点下となる日があり、毛布や寝袋に包まれているにもかかわらず、ストーブを焚いていても寒い状態でした。山間部に位置するためか、晴れていたかと思えば、吹雪になったりと気象の変化が激しい所でした。

また、避難者は周りの集落で生活していた方々で、家屋が全壊、または倒壊の恐れがあり、立ち入りできないため、避難所生活を余儀なくされている状況。お互い顔見知り、住み慣れた土地から離れたくない思いがあり、二次避難を躊躇っていました。

なお、私自身としては、平成7年に阪神・淡路大震災が起きた際に兵庫県消防学校で救援物資の仕分け作業を行ったこと、本市の避難所直行職員の経験(平成25年～平成30年)が活かしたと思っています。

最後に、今回実際に珠洲市で体験したことを、本市の政策において、災害に強いまちづくりに活かしていければ、被災地支援が有意義なものになるかと思えます。

避難所支援に当たりまして ②

<感想:渡辺>

わたしたちが従事した避難所では、避難者の大半が、自身の家屋が全壊または半壊となり、将来への不安を抱えているとのことでした。

我々は、率先して避難者のためにできることを探し、そして避難者に寄り添いながら、物資搬入・施設内衛生管理などの避難所運営業務に従事しました。

今後、本市が被災した際に、避難者のニーズにどう応えられるかを考えなければならないと感じました。

<感想:田中>

避難所運営支援の感想としては、まず、日頃からの町会・自治会等のコミュニティの繋がり的重要性を感じました。

次に、食事については、支援が行き届いたものの、日数が経つにつれ、肉や魚などの食を欲する避難者の方が多かったです。

また、避難者の健康面では、DMAT等の医療支援チームが健康管理に来てくれるが、塩分の多い災害食が多いことと、集団生活のストレス等で血圧が上昇してしまっている避難者が多くいました。医療チームから薬を頂いておりましたが、発災時は食に気を遣う必要が大きいと感じました。

最後に、学校の再開について、学校から避難所へ帰ってきた子どもたちが笑顔で帰ってくることが多く、学校再開を早めに行う必要性を感じました。

災害に備えて ～教訓にしたいこと～

- いつ、どこで起きるか分からない災害への備えとして、市民に最低3日分の生活物資を備蓄する意識を促す。【自助】
- 日ごろから地域連携を図り、有事の際は、市と地域とで協力体制を確立し、共生社会を構築する。【共助・公助】
- 関係各部署職員が積極的に現地に赴き、発災時に他の自治体・団体と協力体制が組めるよう連携を図る必要あり。
- 珠洲市役所の建物はしっかりしていて、防災拠点となっていたため、本市でも市役所の建物は重要。
- LoGoチャット(LINEと同類のSNS)を活用した連絡手段が有効。「衛星携帯電話は使用不可地域あり」
- 松戸市と自治体名を表記したビブス、または軽量で動ける作業着が必要。(自衛隊、警察、赤十字、自治体が混在)
- 体や髪が洗えない、未知の土地(悪路・雪道)での自動車運転、汚物の悪臭、寒さと激務で睡眠不足、職員の健康・精神面でのケアが必要なことから、後泊を推奨。